

1 第1年次の成果と課題より

- 成果** 「個別の授業目標設定シート」を作成、話し合いのたたき台とし、個々の長期目標を確認した上で、校内授業研究の実践教科・領域の短期目標、授業目標を明確にして授業実践を行うことができた。
- 課題▲** 授業研究では、学習計画案（細案）を作成し、授業内容や個々の支援について話し合い授業改善することができ、成果がみられた。しかし、日々の授業で、個別の指導計画に基づく授業を考え、話し合い、実践することは難しいという課題があがった。

- ◎より、日々の授業にいかせる授業研究にする。
- ◎第2年次の取組として、「個別の指導計画」が指導のよりどころとなるよう、作成方法や記入内容について整理し、作成段階の十分な検討をしていく。
- ◎「個別の指導計画」の活用方法を工夫し、日々の授業や一貫した支援に生かせるよう改善を図る。

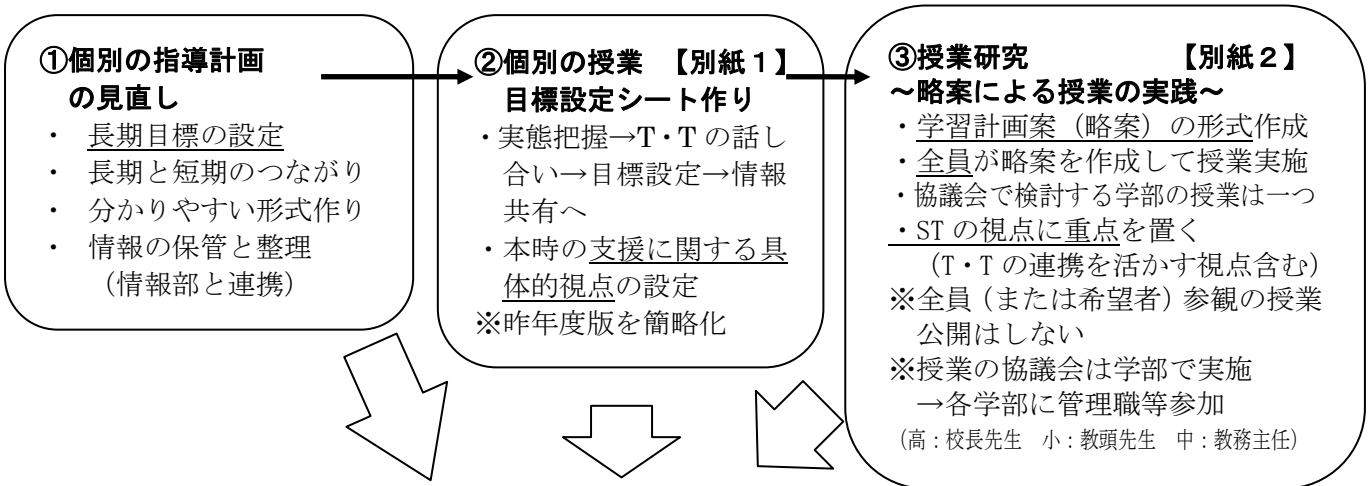
2 第2年次の目指すところ・研究の目的

「個別の指導計画」に基づく授業を考える ～一人一人の力を発揮できる授業をめざして～ (第2年次)

- 「個別の指導計画」に基づいた授業の実践ができる。
- 計画・授業・評価と、「個別の授業目標設定シート」や「T・Tの連携」を活かしながら、一人一人の力を発揮できるための授業作りができる。
  - 一時間一時間のよりよい授業の実践（授業改善）
- 授業の評価を個別の指導計画の評価へ、よりよく活かすことができる。



3 今年度の研究の全体像（ポイント） — 内容と方法 大きく3点 —



予想される成果

【児童生徒】

- ・ 「よりわかった」「できた」等
- ・ 「自信がもてた」「満足できた」
- ・ やりたい思いが実現できた。
- ・ 友達の輪の中によりよく集団参加ができた。(教師の仲立ちにより)友達と一緒に活動できた。
- ・ 発言したいときに聞いてもらえた。

【教師】

- ・ 「個別の指導計画」を計画時・評価時だけのものにしなくて、日常の授業に結び付けられた。
- ・ 「個別の授業目標設定シート」を基に情報交換と実態把握の話し合いができた。その結果、児童生徒の目標・支援を最適化できた。
- ・ 話し合いを基に T・T や ST の具体的な視点をもって授業参加したことで、児童生徒の変容が分かり、次の授業に向けて目標・支援をよりよく変えることができた。
- ・ ST として積極的に授業に参画できた。他の授業でもこの方法で取り組みたい。→T・Tの連携の深まり。